

公益社団法人
中部日本書道会

濃飛

濃飛支部会報
第9号

●発行●
令和2年2月
濃飛支部広報部
電話 0573-28-1437
FAX 0573-28-1799

●印刷●
(株)協和印刷工業

題字 故永治秋聲

書作への心構えについて

濃飛支部長 三野島 凌雲



令和になり最初の正月を迎え、健康やかな新春をお迎えのこととご大慶に存じます。

今年冬の雪がない暖冬で、白雪が舞う風景が見られない雪国には珍しい初春となっております。昨年の一年は、新元号「令和」に注目が集まりました。2019年が幕を閉じ、新たに2020年代に入りました。そして、オリンピックイヤーの幕が開け、日本の姿を全世界にPRする絶好の機会として、全国各地に観光客の増加が期待されることにも、開催国の日本中が沸き立つ年になると楽しみにしています。また、今年庚子で、ネズミは沢山の子を産むことから繁栄の象徴とされ、「子年は繁栄」で上げ相場になると言われています。子年にあやかり、皆様にとって繁栄の年になることをご祈念申し上げます。

一方で中日書道会は、総力を挙げ書のオリンピック・パラリンピック2020―世界の書の祭典―を開催します。日本は世界の書を意識し、書を通じて心を通り持ち、新たな書の発展に向けた礎となることを念じるとともに、日本の書文化が確固たる姿で根づいていくことを期待しています。

濃飛支部としても、世界の書の祭典に支部として参画し、時代を担う若者の育成の一助になるようデモンストレーションを進めて参ります。また、支部会員の高齢化等による会員減に歯止めをかける必要があります。会員の増加については、世の動きが混とんしている中で、少しでも筆を持ち書文化の継承につなげるべく、書に親しむ方や若者の育成に努めながら会員増につなげて参りたいと存じます。

本題の「書作への心構えについて」問われると、やはり「古典」が重要と考えられています。個人の苦心の努力の結晶（栄養剤）である古典を学び取り、これを土台として書芸を極めることは、古典の良さ、技術を知り、創作に生かし、自己作品にしていく過程で、自己の書芸術の確立につながります。また、山岡鉄舟などの逸人の書品のある書を見るにつけ、幕末明治から戦前の書が人格と常に結びつけて考えられていたことから、学業と徳行（精神修養）を両輪として、個性を出す作品、即ち魂を入れ存在感のある書を目指すことが求められていると考えています。

さらに、いい詩を選んだとしても、自分の書の表現（紙の大きさや形における文字の配置、墨色、潤滑など）に合わないければ、書として最高の条件で表現できません。素材と表現の工夫は、鑑賞する方の視線も考慮し、自分の主張を強調しながら書への追及が必要だと思います。

令和の時代には、人格と書芸を合わせ、書品のある書を追求することを大切にしていきたいものです。

今年、支部展を高山で開催します。多くの会員皆様には存在感のある秀作を多数ご出品いただきますようご協力をお願いし、支部長の挨拶とします。

令和元年度 濃飛支部集会

日時 七月二十五日(木)
会場 中津川市にぎわいプラザ5F

支部展三日目の一時三〇分より二階の会議室に移動して第三十四回の支部集会を開催しました。本部より佐野翠峰先生、山内江鶴先生に御臨席いただき御挨拶を戴いた後、支部長進行のもとに平成三十年度事業報告、収支決算報告を受け承認されました。次に令和元年度事業計画案、収支予算案が提示され、いずれも可決されました。



濃飛支部役員

- 常任顧問 今井 仙童
- 顧問 中川 貴舟
- 参与 森 京華 / 石原 馨風
- 支部長 三野島凌雲
- 次長 増田 春暉 / 中垣 幸聲
- 庶務担当 成瀬 仲芳
- 経理担当 成瀬 仲芳 / 松田 秋芳
- 〇磯村 小園
- 〇阪田 華香 / 安藤 朱游
- 〇斉藤 千秋
- 〇工藤 雅翠 / 田口 紅苑
- 〇堀 梅肇 / 大野 馨泉
- 〇田口 秋水 / 今井 瑞華
- 〇田中 凌山 / 長谷川 鳳声
- 事業担当 〇田中 凌山 / 長谷川 鳳声

第三十四回濃飛支部展

会期 七月二十五日(木)～二十七日(土)
会場 中津川市にぎわいプラザ5F
出品総点数 百四十六点
(内訳)
中日書道展出品作品 七十点
色紙作品 七十六点

- 本部より賛助出品 六点
- 理事 伊藤仙游先生
- 副理事長 岡野楠亭先生
- 事務局長 松下英風先生
- 企画委員長 加藤 裕先生
- 大池青岑先生
- 横井宏軒先生

- 広報担当 〇中垣 幸聲 / 虎井 姚花
- 〇市川 純慧 / 今井 晴美
- 監事 上林 祥雲
- 〇担当部長 〇副部長

広い会場一杯展示されました。賛助出品の先生方の作品には会員が多く集まり、研究会も始まっています。又、昨年濃飛支部に加わって戴いた篆刻の作品がより書道展らしい雰囲気になって良い支部展ができたのではないかと考えています。

令和二年には、本部の書のオリンピック・パラリンピックという書の祭典がある為、新たに書の魅力を伝えられたら良いと思います。



濃飛支部展を振り返り

堀 梅肇

第三十四回濃飛支部展が令和初となる元年七月二十五日より七月二十七日に中津川にぎわいプラザで開催されました。

展示会場は前回恵那文化センター、今回は高山と巡回する形を取っており、準備、運営において担当される方は大変な苦勞があったと思います。私も前回の恵那より参加させて頂いていますが、未熟さと不慣れな為、お手伝いするにも行き届かず戸惑うばかりでしたが会場の設置では、体力を必要とする部分では頼られる場合もあり協力出来たかと思えます。

今回も本部からの賛助出品も展示の他令和記念色紙、小作品も展示され、賑やかさと、支部集会では佐野翠峰、山内江鶴両先生に御参加頂き重厚さが加わり、講演では三野島凌雲支部長自ら江戸時代末期、明治時代に活躍した能書家の作品を多数持ち込んで当時の書の真本質、時代背景等詳しく解説して頂き大変貴重で勉強になりました。

濃飛支部講演会について

日時 七月二十七日(土)

会場 中津川市にぎわいプラザ

講師 濃飛支部長 三野島凌雲

演題 幕末維新時代の能書家

…令和時代、書の隆盛に何を望む…

講演会場には、高山市に残されている頼山陽、山岡鉄舟、中林梧竹、丹羽海鶴等幕末能書家の実物の書が飾られ圧巻で

した。

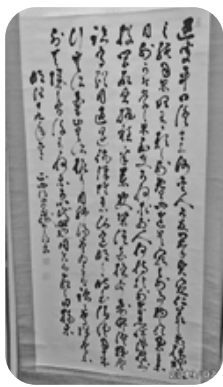
三野島氏は、高山在住、ご実家は昔から薬屋さんを営まれておられ富山からの往来する旅人が多く、昔は宿代の代わり書画を書いて行く人があった様です。恵那や中津川も中山道の街道を多くの歴史上の人物が、江戸と京とを駆け抜けたと思うとロマンを感じます。先生は、沢山の資料を用意され、限られた時間の中で岐阜県に關係の深い能書家の活躍を話されました。後から資料をじっくりと読み返すと知らなかった事が多くあり、とても興味深く読ませてもらいました。

時代は進み、IT時代となり、さらにはどんな世の中になってゆくのでしょうか。

芸術として書を学ぶだけでなく人間の心のあり方を書き記すべく文字を次世代へにどう伝えていくのか。こんなことを学ばせていただいた講演でした。またの機会を期待したいものです。



受講者は三十名。中津川市出身の丹羽海鶴の話をもう少しすれば良かったかなともおっしゃって見えました。



山岡鉄舟 書

濃飛支部交流会

日時 七月二十七日(土)

会場 中津川市『中津川照寿庵』

展示会の後片付け終了後、六時頃より交流会が始まりました。本部より佐野先生、山内先生に御臨席戴きました。外は雨でしたが、庭園は雨に濡れ夜灯が草木を美しく照らしていました。



オープニングは The fight (トレフオーリエ) による三重奏で幕開けとなりました。この三重奏は、フルート、ヴァイオリン、ピアノの美女三人による演奏です。

『愛の挨拶』『トルコ行進曲』『アヴェ・マリア』などの素晴らしい演奏をバツクに交流会が進行されました。照寿庵の心のこもった美味しい料理に舌鼓を打ちながら、会員相互の交流が深まりました。本部の先生のまわりにも多くの人が集まり「書」についての御指導を受けていました。宴も酣となりましたが終了となりました。

帰る頃には雨も上がり夜空に星も輝いていました。



第69回中日書道展 入賞・入選者

- 桜花賞 堀 梅肇
- 特選 磯村 小園
- 準特選 工藤 雅翠/成瀬 伸芳
- 秀逸 渡辺 敬月
- 一科入選 小木曾美空
- 二科賞 阪田 華香
- 奨励賞 田中 凌山/上林 祥雲

桜花賞 受賞者 堀 梅肇



この度は「桜花賞」という大きな賞を頂き誠にありがとうございます。

篆刻は書道の中でも特殊な部門であり、数センチの印材の中に表現する文字の意味、時代背景、パランス、力強さ等、十数年勉強して来た今でも未知の世界が多く、先生、諸先輩、仲間からの御力添により、受けた賞の名に恥じないよう、これから更に勉強しなければと思います。



梅肇 超躍 駭

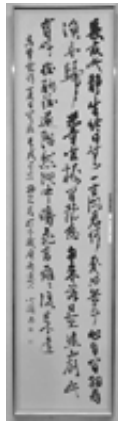
特選賞 受賞者 特選賞を受賞して

磯村 小園

この度中日書展に於て、特選を頂きありがとうございます。これもひとえに御師や教室のお仲間のお陰と感謝しております。

皆様のご指導、励ましのお陰と感謝しております。

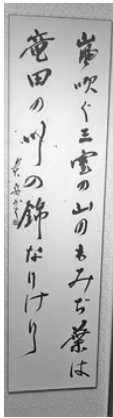
去年は、春までの体調不良が続き寝込んでいたもので、書き始めるのが遅くなりましたが、短い時間を集中した甲斐あって賞がいただけ嬉しく思っています。まだまだ勉強不足を感じる事が多いですが、これからも一層の努力をしてくつもりでいますので、よろしくお願ひ申し上げます。



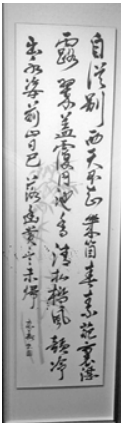
第二十八回

書展 出品者

中川 貴舟



森 京華



読売展 入賞・入選者

秀逸 堀 梅肇
成瀬 仲芳
田中 凌山
安藤 朱游

毎日展 入選者

入選 石原 聲風
齊藤 千秋
田口 秋水
中垣 幸聲
西 恵香
増田 春暉

中津川市民展 入賞者

市長賞 増田 春暉
奨励賞 西 恵香

恵那市民展 入賞者

市長賞 安藤 朱游
努力賞 堀 梅肇
長谷川鳳聲

多治見市民展 入賞者

市議会議長賞 堀 梅肇

各社中だより

第三十七回 暢陽会会員展 第五十七回 永治書院学生書道展

日時 十月十八日～二十日

場所 中津川市にぎわいプラザ五階

第37回暢陽会会員展はテーマを「令和の盛夏のなかで、名古屋の先生の御指導もいただき乍ら何回か研究会を開催して作品作りに取り組み、会員の思いを込めた作品が出来上がりました。



楷行草、かな、近代詩文、篆書、水墨画など70点あまりの個性豊かな力作が、会場一杯に展示されました。

第57回永治書院教育書道連盟学生展も同時開催し、子供達が自分で考えた字句を半切用紙に力強く書いた作品が60点展示されました。会期中、各方面の大勢の方々に御高覧を戴きましたことを感謝申し上げます。共に、今後のご指導も合わせてお願い申し上げます。



研修旅行

旅行に参加して

市川 純慧



令和元年十一月二十三日晴天に恵まれ、紅葉に包まれ、会員二十六名が参加、出発しました。日比野五鳳記念美術館見学、南宮大社参拝、海津南濃みかん狩りと欲張りルートの旅してきました。

最初は、日比野五鳳記念美術館見学。日本書道界の大御所は、安八郡神戸町出身で、漢字、仮名を融合した日本の書を清らかな品格と深い味わいを持った次元の高い芸術の確率に生涯を捧げた人であり、昭和天皇御製謹書献上され、日展出品作「うぐひす」「ひよこ」「いろは歌」等京都美術館、東京国立博物館に収蔵されています。また、日展常務就任、文化功労者として顕彰されており、近くにこんな著名人がいるのかと美術館に入館しました。三百点の作品を見て、なんと優しく、温和な字なのだろう、墨の濃淡がはつきりしていて、自由にのびのびと書いていました。氣質が作品によって異なり、本当に美しい品のある書を拝見することができました。氣力、迫力、躍動感、個性を模索しながら、書いている思いとは、そのこと自体に、深みがあり、味わいがあり、とてもよい勉強ができました。その後、幸せを呼ぶ南宮大社を参拝し、みかん狩りで心身ともに堪能して、帰路へつき楽しい一日となりました。



「下呂合掌村」

中川 貴舟

下呂市の観光施設として、昭和三十八年（当時下呂町、海拔四三八m、総観光敷地面積一三、六八九㎡を有する）開設「合掌の里」と「歳時記の森」で構成されており「合掌の里」は、世界遺産の白川郷、富山県の五箇山などから移築。「旧大家住宅」国指定重要有形民俗文化財をはじめ十棟の合掌造りの集落を再現している。

「旧大戸家住宅」は、天保四年から弘化三年（一八三三〜一八四六）までの十三年間を費やし造営された切妻造茅葺の合掌造である。また、旧岩崎家住宅（現資料館）は五箇山からの移築、切妻造茅葺で、合掌造りの民家の中では、五箇山地方の仏間座敷の発展形態を例証する大変貴重な文化財とされている。又旧遠方家板倉、かえるの館、体験工房では、陶器の製作（予約制）絵付、和紙の絵漉きが体験出来る。その並びの白壁づくりの館は、円空館である。生涯で十二万体的仏像を刻したとされる円空像が展示されている。展示に工夫がなされていて、四方から仏像がご覧頂ける。円空館を出ると、食事処市倉がある。ここでは川魚の炭焼きが召し上がれます。そして大きな水車を見ながら少し坂道が上がって行くと、一度お詣りする料理が上手になると言われている、高椅神社がある。又竹原文楽記念館。舞台付きのしらすぎ座では、芸妓さんの舞をはじめ、さまざま演目が行われる。

「歳時記の森」は桜やモミジなどの四季の草木が植えられている。茶房「萬古庵」ではスイーツを、二階では福井正郎作の木版画の展示室となっている。水車小屋は、村内唯一の寄棟造茅葺である。かえる神社、眼下に合掌集落を眺めながら巡り四季の移ろいを感じ乍ら、散策を楽しんでいただけます。また、全長一七五mの森のすべり台（ローラースライダー）。某週刊誌の調べでは、全国十番目の長さ）で終日人気を得ている。村内一巡りしましたら「合掌の足湯」で体内を温め、疲れを癒して下さい。（他にも手湯あり。下呂温泉は、アルカリ単純温泉。pH9.18別名美人の湯とも言われている。）又茶屋には美味しいみたらし団子五平餅などもあり、皆様のお越しをお待ちしております。

（車の場合はR41で、列車高山線下呂駅下車 駅前より毎四十分バスが運行。徒歩一二〇〇m）（町誌他資料参考）



令和二年度 事業計画

事業名	予定年月日(曜日)	実施開催場所
支部展	令和2年8月21日(金) 令和2年8月22日(土) 令和2年8月23日(日)	高山市 高山市民文化会館
支部総会	令和2年8月22日(土)	高山市
講演会	令和2年8月22日(土)	ひだホテルプラザ
支部交流会	令和2年8月22日(土)	高山市
企画委員会	令和2年4月 令和2年9月 令和3年3月	高山市 中津川市 中津川市
役員会	令和2年8月 令和2年11月 令和3年1月	高山市 中津川市 中津川市
研修会	令和2年11月予定	未定
支部報10号	令和3年2月1日発行	

会員募集

新元号発表の「令和」の凛とした文字に毛筆ならではの重みと優雅さに感動でした。毛筆には活字に無い、人の心に潤いをもたらす素晴らしい日本の文化ではないかと思えます。近頃は書道を学ぶ人が減少きみと聞きます。誠に残念に思います。

現在筆の手を休めてしまってみる方も、もう一度筆を取ってみませんか！墨の濃淡のみで表現できるご自分の思う作品づくりをしてみたいかがですか？

この会では毎年秋頃に親睦を図りながら研修会の旅行があります。今年「かな」の巨匠の作品が観賞出来ました。素晴らしい作品の数々に魅了させられました。こうして楽しみを交えながら会員の人達と書を学んでいます。是非この会で学んでみませんか。入会をお待ちしています。

会員部より

詳細は事務局まで。(担当) 工藤雅翠

☎〇五七二一六五一一〇二一〇

編集後記

二〇一九年(平成三十一年)は、皇位の継承があったため、元号も五月一日より平成から令和に代わった。昨年各地で災害が起こり、災害の後遺症に苦しむ人、寒くても住む場所もない人等復興もままならないまだまだ。一日も早く温かい所で安心して暮らせようようにと折らずにはいられない。年号が変わっても過去のことを忘れてはならない。

濃飛支部も昨年、支部長以下役員が替った。今まで余り濃飛支部に係ってこなかった新しい人達が重要なポストに選任された。事業計画の中の行事を遂行するにも手間取り、時間がかかり会員に知らせるのが遅れ、迷惑をかけることが多かった。それでも新体制の中で懸命に努力し、今までの役員も丁寧にフォローし支えて来た。濃飛支部発展の為に「ひとつになつて」知恵と力を出し合ってきたからだ。今の時代誰も忙し。忙しの中で、何を優先するかを考え自分の計画をやりくりし、会議に参加するのは大変かも知れないが、会議の参加者も多かった。そんな中、今年度も支部広報第九号が発行出来る運びとなった。忙しい中、原稿を寄せてくださった皆さん、編集に関わってくださった皆さんに感謝し、発刊を喜び合いたい！

真面目、誠意、優しさが濃飛支部の長所だ。

これからも
「ワンチーム」で頑張ろー！
(広報担当 中垣幸聲)

